

平成31年度（令和元年度）事業実績報告

令和 2年 4月 1日
わきはまこども園

1、こども園の運営

所在地 貝塚市脇浜3丁目31-8
定員 80名(2号・3号) 9名(1号)
3月在園児数 93名
(内訳) 0歳児 3名 1歳児 15名 2歳児 16名
3歳児 22名 4歳児 21名 5歳児 16名
職員数 園長 1名 副園長兼主幹保育教諭 1名 事務長 1名
主幹保育教諭 2名 保育教諭 17名(育休中1名含む)
管理栄養士 1名 調理員 4名(株淀川食品所属)
事務員 1名

2、保育目標

- ・ 体も心も元気な子の育成
- ・ 思いやりのある子の育成

(1)〔開園時間〕

午前7時～午後7時(保護者の状況により伸縮させる。)

〔基本保育時間〕(2号・3号)

午前9時～午後5時

午後6時～7時(延長料金徴収)(標準時間認定者)

午後5時～7時(延長料金徴収)(短時間認定者)

〔基本教育時間〕(1号)

午前9時～午後1時

午後1時～午後3時半(希望者は保育時間)

午後3時半～午後5時(延長保育料金徴収)

(2) 保育・教育の内容

- ・園児の個性や成長に応じることを意識した上で、理念、方針を基本とした保育・教育を実践した。
- ・体育や英語、習字、珠算の成果は、運動会や発表会にて発表した。年度内に2回(夏1回と秋1回)に自由保育参観週間を設定し、体育、英語、珠算の授業を保護者向けに公開予定であったが、感染症の流行や増改修工事の都合もあり、2回共実現出来なかった。体育で取り入れている剣道は運動会で披露し、珠算に関しては楽しみながら数字の概念や計算力を身に着けることが出来、保護者からも好評を博した。
- ・平成30年度に引き続き、年長児に対して美術展に応募する機会を多く設け、結果、皆が切磋琢磨し、やる気を持って自己表現に邁進し、精神面での大きな成長のきっかけとなった。
- ・プール遊びについては、市営プール行きは1回~2回程度にし、園でのプール遊びも回数をおさえ、水遊びや泥遊びにシフトする対応をとった。理由としては 暑さ対策 プール遊びによる乳幼児の事故が多く報告され、園にも水遊び等の際の注意指示が頻繁になった為。
- ・おおぞらこども園との子ども同士の交流は雪遊びをはじめ、数回実施することが出来た。5月に行なった泉南市での田舎体験(田んぼでの自然遊び)も定着しつつある。
- ・給食に関しては、食材料費について品質は保持しつつ、節約の共通認識を持ち、安全な給食、おやつ作りに努めた。管理栄養士や食育担当保育教諭による食育活動を盛んにした。また12月頃から流行ることが多いノロウイルス感染症に関して今冬は感染者がゼロであったが、12月末~1月末にインフルエンザA型、2月末~3月上旬にインフルエンザB型の感染者が多く出たことや、何より新型コロナウイルス感染症が1月下旬~2月、3月と月を追うごとに大阪府でも感染者が増えたことから、冬の食育に関する行事は軒並み中止とした。

- ・夏場は園外活動を通して、自然との触れ合いを充実させ、クッキングやその他食育活動にも還元した。
- ・二色ノ浜海岸のクリーンアップ活動で環境問題を考える機会を作り、更には奉仕の心を身に付けたり、芋掘りにより地域の方々との交流を図った。
- ・夏には貝塚いぶき作業所にて年長児が陶芸を体験し、園内で作品を展示した。
- ・8月には脇浜町会より招待を受け、3歳児以上の園児が夏祭りに参加する予定であったが台風襲来により、中止となった。
- ・1月には十日戎の日に福参りをさせて頂き、地元根付く日本の伝統行事に触れた。
- ・3月参加予定であった西校区福祉委員会主催の独居の高齢の方々とのいきいきランチの会は新型コロナウイルス感染症流行拡大防止の為中止となった。
- ・園児の保育必要時間が昨年度と同様、遡っての変更が変わらず頻繁で、作業や操作に工夫や人手が必要だった。
- ・例年通り中学生の職業体験や短期大学の実習生を受け入れた。高校生の職業体験や4年制大学生の実習は受け入れなかった。
- ・新卒採用は必要がない為、行わなかった。
- ・引き続き処遇改善加算を受ける中で、可能な範囲でキャリアアップ研修を受講した。乳児保育研修に1名、幼児教育研修に1名、衛生安全管理研修に2名、マネジメント研修に1名が参加し、認定を受けた。自然災害(水害)により数回の研修は延期となったが何とか年度内に全課程を終えることが出来た。
- ・音楽の実技研修は自然災害により中止となった。
- ・体育の実技研修に数名が参加し、他職員に還元した。
- ・保育士の処遇改善加算 と は実施された。
- ・保育士の処遇改善加算 は例年通り3月に手当として支給した。
- ・遊具や砂場の保守点検業務について(株)ビティへの委託は増改修工事期間中のため、一旦休止している。

- ・施設的环境整備や書類のデータ化等は担当保育教諭が担い大きく前進している。
- ・園の方針に則り、各クラス内での保育のみにとどまらず、各自、任された担当業務を遂行し、みんなで力を合わせた業務を実践する事が出来た。
- ・平成31年度は自然災害や未知の感染症の脅威に晒された年だったといえる。

(3) 保育・教育担当

- ・担当保育教諭を定め、園長は総括指揮をとった。
- ・事務長は運営事務に関する総指揮をとった。
- ・職場研修を積極的に推進した。
- ・管理栄養士、調理員の配置で、子どもの安全、健康づくりを図った。

3、 保育・教育設備

園舎・・・前年度と同様、美化に努めた。
増築棟はほぼ完成し、5月の引き渡しを待つ。
既存棟の修繕を全体の5パーセント程進めた。主に2階ベランダ付近。
増改修工事により週、月単位で動線が変わったり保育環境に影響があった為、少しでも快適な環境で園生活を送れるよう、配慮した。
新型コロナウイルス感染症対策として密を避け、換気をよくする等の工夫と増改修による環境制限とを出来る限り調整した。
9月以降、月2回の設計者、工務店、設備関係者との定例会議により、増築棟、改修棟の詳細を決めていった。

備品

保育教諭業務省力化の為、カメラ1台を購入。

調理室内の劣化、破損した分の食器類を購入。

延長保育利用児用絵本を購入。

○台風によりなくなった交番横園看板1枚を購入。

2階設置予定のホワイトボード(大)を父母の会の補助を受け、購入。

4、 資金の計画

施設型給付費収入と補助金収入をもって収支均衡を図った。

5、 その他

引き続きインターネット関連の業務、安全防犯対策として機械警備、給食会社への委託を行う。

以上

わきはまこども園

園長 山田尚子